



# 山口育児院だより

編集・発行 / 社会福祉法人 山口育児院 2015.5.第32号  
 〒753-0082 山口市水の上町5-27 Tel 083-922-1027 Fax 083-922-2389  
 e-mail y-ikuji@estate.ocn.ne.jp URL http://y-ikuji.sakura.ne.jp/

平成二十七年(2015)がスタートしました。子ども達はもう春、職員にとっても何かと慌ただしい時期です。皆さんにとっても忙しい時期が来ますが、そろそろ新しい生活や環境に慣れてきた頃ではないでしょうか。

育児院ではこの春、新小学生が一人、新中学生が四人、新高校生が四人、訓練校に一人がそれぞれ進学しました。小学生と中学生はまだまだ未熟な年頃です。義務教育とはいえ、新しい環境には戸惑いがあるようです。一日も早く慣れ、学校生活を楽しく欲しいと思います。高校生は受験という試験を乗り越えて掴み取った世界です。それぞれ希望の高校に進学してきたわけですから、しっかりと将来を見据えて頑張ってください。一人進学します。本人の適性や条件から決めた進路です。訓練校には様々な年齢の方がいます。いろいろ大変なこともあるでしょう。

## 近況報告 ～新年度のスタートです～

本人もやる気になっていて、我々職員はしっかりと見守っていきたいと思います。

また、進学だけではなく、進級した子ども達も張り切っています。特に小学三年生から四年生に進級した子は、低学年から高学年になったという意識を強く持っています。職員もそういう意識で見ると、何となくお兄ちゃんになったような気がしてくるから不思議です。高校生のせいかもかもしれませんが、高校生の中には野球部に所属している子がいます。最近の高校球児は普通に髪の毛を伸ばしています。先日その子が、「先生！散髪してくれ！」と言ってきました。それもバリカンのアタッチメントを着けずにそのまま、一番短くして欲しいというのです。なかなか気合いが入っています。こういう心意気は大好きです(笑)。お望み通り、バツサリと切ってあげました。やはり男は坊主頭が良いと思うのは私だけでしょうか？見た目だけでなく、心も気合いを入

れてくれるといいのですが…。これからの活躍に期待しましょう。

さて、育児院ではホームページを開設していますが、事情により今年一月にリニューアルして、アドレスを移行しました。従来のアドレスには自動的に新しいホームページに移動するようになっていますが、本頁の上にも新しいアドレスを記載しています。なかなか慣れずに四苦八苦しながらの更新ですが、新しく情報公開もしていますので、是非ご覧ください。また、御意見をお聞かせ頂けると嬉しく思います。

平成二十七年(2015)がスタートいたしました。今年度もどうぞ宜しくお願いいたします。



平成二十六年(2014)年度決算報告は次の通りです。今後とも宜しくお願い申し上げます。

### 資金収支計算書

自平成26年4月1日～至平成27年3月31日 (単位:円)

		本部	施設
事業活動による収支	収入		
	措置費収入	0	112,849,921
	その他の事業収入	0	801,720
	経常経費寄附金収入	102,700	1,112,023
	受取利息配当金収入	70,406	546,720
	その他の収入	0	1,400,140
	経常収入計	173,106	116,710,524
	支出		
	人件費支出	172,000	86,212,931
	事務費支出	169,045	4,385,965
事業費支出	0	24,703,254	
その他の支出	0	707,762	
経理区分間繰入金支出	0	0	
経常支出計	341,045	116,009,912	
経常活動資金収支差額	-167,939	700,612	
施設整備による収支	収入		
	施設整備等補助金収入	0	1,818,528
	固定資産売却収入	0	0
	施設整備等収入計	0	1,818,528
	支出		
設備資金借入金元金償還支出	0	1,320,000	
固定資産取得支出	0	606,000	
施設整備等支出計	0	1,926,000	
施設整備等資金収支差額	0	-107,472	
その他の活動による収支	収入		
	積立資産取崩収入	0	1,022,424
	財務収入計	0	1,022,424
	支出		
	積立資産支出	0	1,147,350
その他の活動による支出	0	0	
その他の活動支出計	0	1,147,350	
財務活動による収支差額	0	-124,926	
当期資金収支差額合計	-167,939	468,214	

### 貸借対照表

平成27年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
流動資産	15,106,044	流動負債	3,926,448
固定資産	229,831,145	固定負債	18,399,783
基本財産	147,410,822	負債の部合計	22,326,231
その他の固定資産	82,420,323	純資産の部	
		基本金	61,852,105
		国庫補助金等特別積立金	115,361,191
		その他	61,000,000
		次期繰越活動収支差額	-5,798,599
		純資産の部合計	222,610,958
資産の部合計	244,937,189	負債及び純資産の部合計	244,937,189

### 歩々清風

今「花燃ゆ」で吉田松陰が改めて注目されています。松陰と言えば孟子の「至誠」ですが、陽明学にも影響を受けたと言われています。松陰は松下村塾生に「人は学ぶだけでは意味がない。学んだことをどう実行するかが大切である」と言っていたそうです。陽明学でいう「知行合一」ということを松陰は言っていたのではないのでしょうか。

一方、禅の世界では、「余計なことを考えずにまっすぐ動け」と教えられます。朱子学では「先知後行」と言いますが、「先行後知」とでも言うのでしょうか、とにかく動けと言われます。理屈理論が先に立つことはありません。日常生活で体験を通して身につけたものが言葉なり文章なりにしたものが理論になるのだと思います。

死に学問では意味がありません。労を惜しまず頑張りたいたいと思います。(丁)

### 御案内

育児院では、地域の方々に施設を利用していただく為に、いろいろなサービを実施しています。

**トワイライトサービス**  
 仕事の関係で帰宅が夜間になる方、お子さんの下校時より仕事終了時迄お預かり致します。

**短期入所サービス**  
 病気、事故、出産等でお子さんの養育が難しくなった時等、短期間お預かり致します。

当院をご利用ご希望の方はお気軽にご連絡下さい。又ボランティアの受け入れもしております。

福祉に関心のある方、是非一度ご来院下さい。

### 維新の志士 育児院を支えてくれた著名人達

皆様ご承知の通り、山口育児院は明治三十七年に時の洞春寺住職、荒川道隆禅師が日露戦争の戦災遺児を養育することを目的に創設されました。当時施設を運営することは容易なことではなく、また、周りの理解を得ることも難しい状況であったことは、時代背景を考へても間違いのないところだと思えます。

そのような中、山口育児院の創設期には有難いことに本当に多くの方々の御支援を頂いています。平成二十三年に山口市歴史民俗資料館で洞春寺展が開催された時にも少し御紹介しましたが、当時の支援者の中には誰もが知っている著名人も少なくありません。当時の寄付帳が洞春寺に残されていますが、そこには臨済宗や曹洞宗の各寺院、さらに毛利諸家・大村家・萬代家・河北家等の県内の名家の名前が記されています。また、吉富簡一や伊藤博文、井上馨、寺内正毅をはじめとする多数の著名人の名前も記されています。当時の

荒川道隆住職が井上馨公と付き合いがあり、その井上馨公の呼びかけで多くの有力者の御支援が得られたのだろうと推測されます。

その寄付帳を捲っていると、話題の人物の名前も記されています。その方の名は「楳取素彦」と言います。それ迄に何度か改名をされていますが、「小田村伊之助」と言った方がお分かりになる方が多いかもしれません。現在放送されているNHKの大河ドラマ「花燃ゆ」に出てくる吉田松陰の親友とも言える人物です。

楳取素彦（小田村伊之助）は、ドラマでは主人公の吉田松陰の妹、杉文の再婚相手として出てきます。大変有名な方ですが、ドラマで初めて知ったという方もいらっしゃるでしょう。あまり表に出てきませんが、実は坂本龍馬と親交があったり、薩長同盟に貢献したりと、幕末から明治にかけて大いに活躍しています。

二十四歳の時に吉田松陰の妹、寿と結婚し、一児をもつけました。一八六七年に藩命を受けて「楳取素彦」と改名し、同年冬には鳥羽・伏見の戦いで江戸幕府軍と闘っています。

明治維新後は新政府の「参与」となり、木戸孝允や伊藤博文らより早く政府に出仕したことになりました。しかし僅か一ヶ月ちよつとで辞任し、長州藩に復帰しました。その後四十八歳の時に初代群馬県令に就任。県令時代には経営難に陥っていた富岡製糸場を閉鎖せず存続させることを新政府に強く要望し、その結果、後の三井家への払い下げに繋がっています。御存じのように富岡製糸場は先年世界遺産に登録されました。



右端に「男爵 楳取素彦」とあります

明治十四年に妻の寿が逝去。明治十六年、五十五歳の時に文と再婚しています。

明治二十三年に貴族院議員に当選し、その後複数回連続当選をしています。山口育児院が創設された明治三十七年には貴族院議員に再当選しましたが、同四十三年、老齢の為退官が許されました。大正元年（一九一二年）八月十四日、山口県の三田尻（現防府市）で逝去。八十四歳でした。墓は同市の大楽寺（夏目雅子の墓があることで有名です）にあります。

繰り返す述べますが、山口育児院は本当に多くの方の御支援を受けて現在まで続いています。今回は現在大河ドラマの「花燃ゆ」で注目されている楳取素彦を御紹介いたしました。改めて歴史を見てみると、背筋が伸びる思いがします。幕末から明治にかけての長州人の活躍。その維新の志士の活躍と山口育児院は大きな縁で結ばれているといっても過言ではないでしょう。その山口育児院と縁を結んだ我々は、より一層の精進を誓わなければなりません。頑張りたいと思います。



### 子どもの日 温故知新

はしらあのおきいずうはあ  
おとおしいのお  
ごがあつういつかあのお  
せいくうらあべえ  
ちいまあき たべたあべ  
にいさあんがあ  
はかあつてえくうれえたあ  
せえのおたあけえ  
きのおおくらべえりやあ  
なんのおおとお  
やああつとはおりのお  
ひものおたあけえ



最近はこの歌を耳にすることが少なくなってきたような気がしますが、皆さんの周りでは如何でしょうか？育児院では幼児さんや小学生が元気に歌っています。また、外では大きな鯉のぼりが悠々と泳いでいます。

五月五日は子どもの日、御存じのように端午の節句ですが、別名を「菖蒲の節句」とも言います。強い香気と邪気を払う菖蒲やヨモギを軒に吊るし、また菖蒲湯に入ること無病息災を願うものです。また、この菖蒲が「尚武」と音が同じことから、勇ましい飾りをして男の子の誕生と成長を祝う「尚武の節句」でもあります。江戸時代以降に男の子の節句とされたよう、勇ましい兜を飾り、鯉のぼりを立てました。鯉のぼりは、竜門という急流を登り切った鯉が竜となる（登竜門）という故事があるように、立身出世を願うものです。子ども達には現代社会の荒波に負けない、強い人間になってもらいたいと思います。

育児院の幼児さん四名はみんな男の子ですが、この子達はどうかから勇ましさよりは美味しいものの方が良いようです。子どもの日に向けてみんなで一生懸命にお菓子作りをしました。今回はプリン作りです。材料を鍋に入れて温めながらかき混ぜます。ところが、一生懸命かき混ぜていたかと思えば、じつと鍋の中を見つめ、「先生！味見したい！」。いやいや、まだまだ液体です（苦笑）。なんとか我慢して容器にプリンを流し込みます。その途中も指でちよつと舐めてみる子がいて、「こらっ！」と怒られながらも何とか完成しました。自分たちで作った手作りのおやつは格別です。

また、子どもの日のおやつと言えはやはり柏餅です。この柏餅、文字通り柏の葉で包まれたお餅ですが、この意味を御存知でしょうか？柏の木の葉は、新芽が出ないと古い葉が落ちないので。そのことから、子どもが生まれるまで親は死なないとか、家督が途絶えないといい、子孫繁栄に繋がる縁起物として食べられているそうです。育児院ではこの柏餅も出して、子ども達に好評でした。



昔からの行事や習慣には、それぞれ意味があります。実は我々大人でも知らないことが多くあるような気がします。その中には先人の智慧が感じられるものが少なくありません。「温故知新（故きを温ねて新しきを知る）」という言葉があります。そこには自分達が知らなかった、現代に役に立つ、いや、現代に生きる我々こそ知らなければならぬ、必要になってくる智慧が満載かもしれません。機会を見て、子ども達と一緒に改めて日本の伝統行事を見直し、考え直し、その意味を一緒に勉強し、生きるヒントを見つけたいと思います。